

## グローバル人材育成について

東京グローバル人材育成指針（令和4年3月 東京都教育委員会）には育成すべき資質・能力を4つのTARGETとしてまとめている。そこにはグローバル人材育成について、「各校の取組を4つのTARGETと関連付け、学校の教育課程に反映させ、その際設定した目標を達成するために、カリキュラム・マネジメントを行い取り組んでいく」と述べられている。

本校では、校内研究「**SEKAI とのつながりを通して、未来に向かって動き出す子供たち**」※（持続可能な社会を創造する児童の育成）として取り組んでいる。

※研究主題について・・・子供たちを取り巻く人、もの、ことをSEKAIとした。そのSEKAIが学年に応じてグローバルな世界とのつながりを強めていき、持続可能な社会の実現に向けた諸課題を自分のこととして考えることができるように段階的に指導していく。

以下に本校で取り組んでいる4つのターゲットについて紹介する。

### <TARGET 1>主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成

外国語専科を中心とした日々の外国語科、外国語活動の充実に加え、これまでには以下のような取組も行い、英語を用いたコミュニケーションの幅を広げ、外国語を学ぶ楽しさや有効性を実感して主体的に学ぼうとする態度の育成につなげている。

- ・Tokyo Global Gateway の活用
- ・イングリッシュキャラバン来校
- ・香港の子供たちとの英語での手紙の交流
- ・英検協会 ESG テストの実施（本年度で4年目）



Tokyo Global Gateway  
Green Springs 立川

### <TARGET 2>国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成

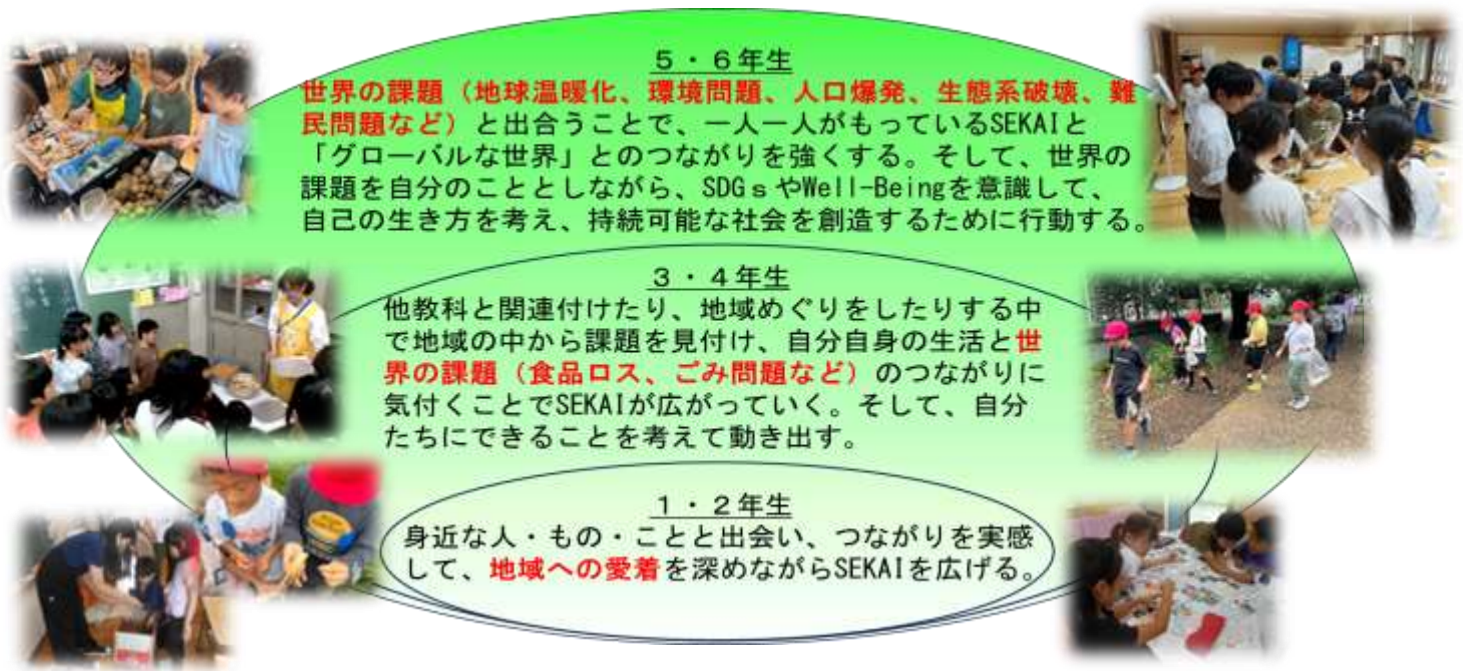
#### 持続可能な社会の実現に向けた諸課題を段階的に扱う探究的な学び

子供たちが、社会事象や諸課題について問題意識をもち、探究的に問題の解決へ向けて学習をすすめるために、生活科、総合的な学習の時間を中心に、次のような段階を踏んでいく。

生活科では、活動と表現を繰り返す中で身近な“SEKAI”とのつながりを強く実感することで、地域への愛着を育み、自立し生活を豊かにしていく。

総合的な学習の時間では、探究的な学習を通して、「世界の課題」と出会うことで、「グローバルな世界」とのつながりを強め、“SEKAI”をさらに広げる。

さくら学級(特別支援学級)は、生活単元を中心に、学年の実態、児童の特性に応じて「世界の課題」を扱い、日常生活とのつながりを図る。



### ＜TARGET 3＞世界の中の一員としての自覚と自己の確立

- ・探究的な学びを通して、「国際社会・地域社会を形成する一員としての自覚」を促す
  - ➡未来（明日、5年後、10年後・・・）の地域、日本、世界をよりよくしていく1つの行動として社会に参画し、自分たちも地域社会の一員であり、社会にとってかけがえのない存在だと実感する。自分たちの取り組んだことが、世の中に影響を与えることを実感する。
- ・「小平よさこい」、「小平グリーンロード灯りまつり」を通じた地域の伝統文化への理解
- ・地域のお祭りへの、児童主体のお店の出店、児童主体のお祭りの開催
- ・内堀タケシ様（「ランドセルは海を越えて」著者）出前授業
- ・NPO 法人日本ガラパゴスの会 奥野玉紀 様「世界遺産ガラパゴスから見える持続可能な社会」出前授業
- ・JICA 職員とのオンライン交流 など



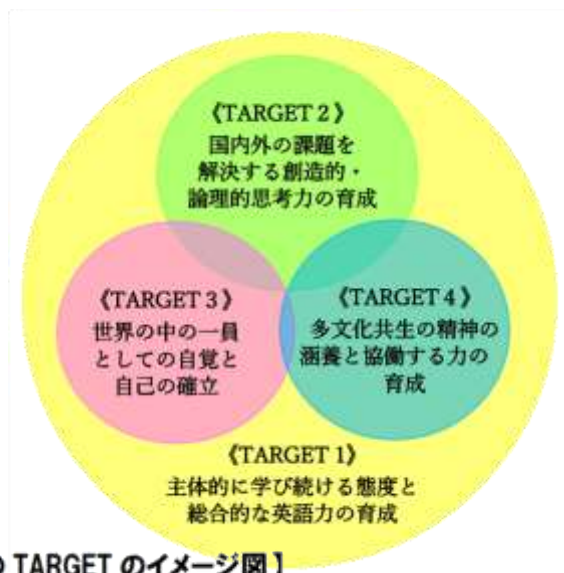
内堀タケシさん出前授業

### ＜TARGET 4＞多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成

- ・ヒップファミリークラブによる国際理解出前授業
- ・ホームステイの受け入れと本校への体験入学
- ・ALT による校内の掲示板での様々な外国の文化紹介コーナー
- ・在外教育施設派遣経験者による海外の様子を紹介
- ・世界の料理給食
- ・バルカン室内管弦楽団 柳澤寿男様 出前授業 など

TARGET を別々に記載したが、実際には TARGET 1 を基盤としながら、各 TARGET を連携させた教育を展開していく。また、教科横断的な視点で推進していく。

（4つの TARGET のイメージ図参照）



【4つの TARGET のイメージ図】

## 第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年11月28日 第6校時

小平市立小平第五小学校

対象 第4学年3組 29名

授業者 堀 裕 樹

### 1 単元名 「ごみ減らす大作戦 ～そろそろ未来を考えよう！～

ごみを減らし、人も生き物も住みやすい世界を」

探究課題：身近な自然環境と、今と未来のために考える世界を意識した環境問題

### 2 単元の目標

「ごみ」という視点で身の回りを見ることで、ごみに関する問題を見付け、その解決へ向けて動き出すことを通して、環境問題と自分たちの生活とのかかわりが未来につながっていることを理解する。さらに、地域の一員として自分たちにできることを考え、様々な人と共に取り組むとともに、自身の生き方を見つめ直し、学んだことを自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

### 3 評価規準

| 知識・技能                                                                                                                                          | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                                                                                      | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①ごみに関する問題点や自分たちの周りや地域の取組を理解している。<br>②課題を解決するために、目的に応じて取材活動を実施している。<br>③ごみに関する問題を中心とした地域の課題解決へ向けた取組への理解は、課題を解決するために探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 | ①身近なものや人、地域の実態から、関心をもったこと、取り上げたいことをもとに課題を設定し、解決の見通しをもっている。<br>②ごみに関する課題の解決のため、必要とする情報に応じて手段を選択して情報を集めている。<br>③ごみに関する課題の解決のために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら、解決に向けて考えている。<br>④活動を通して学んだことや取組について考えたことを、どのように発信し、具体的な行動に移していくのかを考え、表現している。 | ①ごみに関する問題に関心を持ち、自分自身の生活を見つめ直し、自分の意思で探究的な学習に取り組もうとしている。<br>②ごみに関する問題を解決するために行動したいという自分の思いや願いをもち、表現しながら他者と協働し、粘り強く課題解決に取り組もうとしている。<br>③ごみに関する問題を中心に、身の回りの課題の解決へ向けて動いたり、啓発したりと、自分たちができることを考え、目的を見失わずに達成しようとしている。 |

### 4 単元について

昨年度第3学年では、食品ロスをテーマに学習を行った。給食の食材を提供いただいている農家の方にインタビューに行ったり、実際にスーパーや給食での廃棄を調べたりした。それらの問題の解決のために、手前取りや廃棄が少なくなるメニューを書いたオリジナルのポップを作成して、スーパーに置い

てもらったり、給食での食品ロスを減らすための啓発やメニュー作りなどを行ったりした。

第4学年では、社会科での「ごみ」の学習をきっかけに、子供たちがごみについて考えたり、調査したりして、問題を発見していく。その際、児童が調べたいと考えた人、もの、こと（例：地域の人、ごみに関する仕事をしている人、教職員、家庭、世界でのごみ問題など）には、可能な限り直接出会う場を設け、社会や地域とのつながりを実感しながら、探究し、問題の解決へ向けて自分たちにできることを考え実行していく。昨年度より探究を深めるために、一度実行して終わりではなく、実行→振り返り→練り直し→再度実行をしていく。「誰のために、何のために」ということを常に意識した活動へと、児童自ら気づき、活動の質を高めていける展開や声掛けを行う。持続可能な社会の実現に向けた諸課題（本単元では、ごみに関する問題、海洋プラスチックの問題など）を意図的に扱うことで、子供たちの学びに火をつけ、地球規模で物事を捉え考えようとする意識を高められるようにする。

## 5 グローバル人材育成への手だて

自分たちの身近な材と世界の諸問題とのつながりと学習を通して目指す児童の姿を以下のように捉え、社会科での「ごみ」の学習をきっかけに単元を設定していく。

本単元では主に TARGET 2 と TARGET 3 を中心に考え構想した。

『①身の回りの様々な人、もの、ことがごみ問題にかかわっていることを知り、その解決に向けて動いている人がいることや身近な人々の思いを知る。その中で今の生活が成り立っていることを実感する。そして、世界のごみ問題や海洋プラスチックや食の循環の問題にも視野を広げ、自分たちの生活も決して無関係ではないことを知る。』

②また、未来（明日、5年後、10年後・・・）の地域、日本、世界をよりよくしていく1つの行動として社会に参画し、自分たちも地域社会の一員であり、社会にとってかけがえのない存在だと実感する。自分たちの取り組んだことが、世の中に影響を与えることを実感する。』

この2点を結ぶのが 「Think Globally, Act Locally」 だと考える。地球規模で起こっている問題を認識しつつ、子供たちが住んでいる地域社会でできることから行動に移す。また、地域での活動が世界にもつながっているという意識をもつ。（例：落ちていたペットボトルを拾う→世界の海を救えた！と思ってよい、など（NPO 法人日本ガラパゴスの会 奥野玉紀 様「世界遺産ガラパゴスから見える持続可能な社会」出前授業より））

### (1) 児童の思いや願いを大切にした授業展開と教員の指導のバランス

上記の土台となるのは「主体性」である。児童の主体性を高く維持できるよう、子供たちが問題を見出し、どのような課題解決をしたいのか、どのような発表をしたいのかを考えていく。また、児童が関わりたいと思った人へは、児童がその承諾やアポイントメントの連絡をしたり取材をしたりする。街頭インタビューに行きたいときは実際に行くなど、外部連携も子供たち自ら行うようにする。各グループ、各クラスで、子供たちの思いや願いを第一に考え計画を修正しつつ進めていく。確実に出会ってほしい事柄には、そこに気が付くような活動や話し合いを設定する。特に、子供たちが自ら出会うことができなかった持続可能な社会の実現に向けた諸課題については、教師側が意図的に提示し、子供たちの活動と結びつける機会を設けていく。

## (2) 活動と振り返りを繰り返す

子供たちが出会った材とのつながりを通し動き出したことが、自分たちも地域社会の一員そして世界の一員であり、影響を与えられると強く実感するために、課題解決へ向けて子供たちが考えたことを実行していく。しかし、一度実行しただけで終わりにするのではなく、その活動を振り返り、効果はあったのか、誰のために、何のためにになったのか、ということについて再度リフレクションを行い、活動を見直し、練り直し、再度活動へと向かっていく展開とする。

活動①（１回目の活動）（子供たちの思いで実行する）➡活動①を振り返り、課題となったところの改善案を考える➡活動①での振り返りを生かした活動②（活動①の続きや２回目の活動）へと動き出す。

(3) 活動の質を高め、自信をもって動き出すための相互評価（アドバイスタイム）

毎時間や活動ごとの自己評価に加え、活動の計画段階、発表の前段階などでグループごとの学びの様子を伝え合い、相互評価（アドバイスし合う時間（アドバイスタイム））を設ける。全員で練り上げることを通して、活動の質を高め、自信をもって動き出せるようにする。

アドバイスタイムのポイントは以下の3つ。

- ・具体的に何がよいのか、どこに改善の余地があるのか伝える。
- ・あくまで活動や成果物についての批評。作成者への批判ではない。
- ・思いやりのある批評

(参考文献)

「『探究』する学びをつくる」 藤原さと (平凡社 2020)

「子どもの誇りに灯をともし」ロン・バーガー（英治出版 2023）

## 6 單元指導計画(全 70 時間)

|                           | ○学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | ★グローバル人材育成に迫るための手だて<br>・指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 評価<br>規準                                           |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 1<br>ごみについて知ろう！<br>（20時間） | <div data-bbox="205 1238 296 1272" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社会科</div> ○「ごみ」を中心にしたウェビングマップを作る。<br>○調べたいことなどをまとめる。<br>○校内、家庭でのごみ調べ<br><br><div data-bbox="205 1413 467 1444" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">総合的な学習の時間</div> ○グリーンロード、東部公園のごみ拾いのフィールドワークへ行く。<br>○ごみ拾いの振り返りをする。<br>○ごみに関して調べたいこととこれからの総合の計画を立て、その中からグルーピングする。<br>○グループごとの調べ学習<br><br><div data-bbox="205 1702 296 1733" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国語科</div> ○調べたことを新聞にまとめよう<br><br><div data-bbox="205 1803 467 1834" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">総合的な学習の時間</div> ○クラス内発表&他のクラスの新聞も見合って意見交換をする。<br>○1学期の振り返り→2学期へ<br>・ごみ博士になった今、今度は何をしたいのか？<br>➡「自分たちにできることを、実行していきたい！」<br>「ごみを減らしたい！」という思いへとつなげる。 | ・導入は社会科「ごみの処理と再利用」を最初の単元に移動して行う。<br><br><div data-bbox="906 1453 1351 1565" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">★(1)グリーンロードのごみ拾いを通して、問題の発見や危機感など、児童の学びに火をつける。</div> <div data-bbox="906 1574 1351 1646" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">★(1)児童の思いや願いで学習計画をつくっていく。</div> <div data-bbox="906 1655 1351 1765" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">★(1)校内の先生や小平市役所、業者、外部との連絡も子供たちが行う。</div> ・世界的な環境問題にも触れているグループがあれば紹介する。 | 主①<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>知①<br>思② |



|                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                             |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| <p>2 自分たちができることを考え実行しよう！<br/>(30時間)</p> | <p>○これまでの振り返り、これからしたいことを考える。<br/>○グループごとに課題を設定し、学習計画を立てる。<br/>○行動に移すための準備をする。</p> <p><b>○世界のごみ問題を知る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のごみ問題について調べている児童がその現状について紹介したり、こちらから資料を提示したりして、世界のごみ問題の現状を知る。</li> </ul> <p>○適宜アドバイスタイルを行う。<br/>○実際に行動に移してみる。(活動①)</p> <p>＜活動①→活動①の振り返り→活動②へ＞</p> <p>○自分たちの活動を振り返る。<br/>○集まった情報をもとに、次の活動を考える。<br/>○2回目の活動のための準備をする。<br/>○全体でその活動が、1回目の反省を生かしているかを評価し合う。活動の修正を行う。</p> <p><b>○2回目の活動を行う。(活動②)</b></p> <p><b>○地域の方なども交えたアドバイスタイルを行う。【本時】</b></p> <p>○活動の振り返りを行う。<br/>○この後どうしたいか考える。<br/>C:「ごみについての問題と自分たちにできることを、他の人たちにも伝えたい！」<br/>➡これまでの学習のアウトプットへつなげる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自由な発想で考えることができるようにする。</li> </ul> <p><b>★(1)世界のごみ問題を知る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のごみ問題と自分たちの生活がつながっていることに気付けるようにする。</li> </ul> <p><b>★(3)活動の質を高め、自信をもつて動き出すための相互評価(アドバイスタイル)を適宜行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「だれのために、なんのためになるか」の観点で整理し、目的・対象を明確にする。</li> <li>・「実現可能か」「まちのためになるか」という座標軸で活動を視覚化する。</li> </ul> <p><b>★(2)活動と振り返りを繰り返す。</b></p> | <p>思①</p> <p>知②<br/>思②</p> <p>思③<br/>主②</p> |
| <p>3 ごみに関する学びや取組を発信しよう！<br/>(20時間)</p>  | <p>○LUSH 出前授業で企業の環境への取組を知る。<br/>○伝えたいこと、伝えたい人、伝え方を考える。</p> <p><u>伝えたいことの例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみについての問題点と身近な課題、世界のごみ問題と現状、ごみについての問題を解決する取組、自分たちがしてきたこと、関わった方の思い など</li> </ul> <p><u>伝えたい人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域の人、清掃工場の人、市役所の人、校内の先生、学校のこどもたち など</li> </ul> <p><u>伝え方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁新聞、ポスター、フリップ、劇、スピーチ、アート作品(展覧会で展示) など</li> </ul> <p>○発表準備をする。<br/>○中間発表を行い、発表の修正をする。<br/>○発表会を行う。<br/>○1年を通しての振り返りをする。<br/>○自分のこれからの生き方について考える。</p>                                                                           | <p><b>★(1)企業の環境ポリシーを知る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が伝えたい相手に伝えられる発表会の方法を子供たちと共に考えていく。</li> </ul> <p><b>★(3)活動の質を高め、自信をもつて動き出すための相互評価(アドバイスタイル)を適宜行う。</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>思④<br/>主③<br/>知③</p>                     |

## 7 本時の学習(第35時／全70時間)

### ＜本時に至るまでの学びのあしあと＞

社会科でのごみの学習をきっかけに、ごみについてもっと調べたいという子供たちの気持ちが高まった。昨年度の経験が生かされ、自然と「食品ロス」や「海洋プラスチック」「地球温暖化」「緑が無くなり生き物のすみかが減る」などは全グループから出ていた。まず、地域のごみの実態を知りたいということで、学校の周りのごみ拾いに行くことになった。わずか1時間で30Lごみ袋が4袋以上にもなり、毎日通っている身近な場所がこんなにもごみで溢れていることにショックを受けていた(その2日前には別のクラスがごみ拾いを行っていた)。そこで、自分たちの住む街を住みやすい街にしたいと、ごみの問題を解決するために自分たちにできることを考えていった。一学期は、ごみに関する問題点を中心に調べた。二学期は、その問題の解決に向けて取り組んでみたいことを考え、実際に取り組み出している。3組は、「ごみ拾いイベント計画チーム」「海のごみ削減チーム」「ごみ箱製作チーム」「マイ〇〇を広めようチーム」「ごみアートチーム」「食品ロスを減らすチーム」「ごみの分別をすすめるチーム」の7つのチームで動いている。活動は大きく分けて2回行い、活動①は子供たちの思いのまま挑戦した。活動後、活動①を振り返り、効果はあったのか、誰のために、何のためにになったのか、ということについて再度リフレクションを行い、活動を見直し、練り直し、活動②へと向かっていった。地域の人を呼んで一緒にごみ拾いイベントを行ったり、段ボールコンポストを作り給食の残菜を土に変えていたり、Tシャツエコバッグ作製教室を開いたりした。チームによっては、活動①が思ったようにうまくいかなかったところもあるが、それを踏まえてどのような取組をしたいかを改めて練り直し、活動②へと動き出している。

小单元1(一学期)の導入～学習計画の実際の

詳しい流れはこちらをご参照ください➡



#### (1) 本時の目標

活動の中間報告を地域の方とともに行い、自信と主体性をもって活動②に向かえるようにする。

#### (2) 本時の展開

|     | ○学習内容、学習活動                                                                                                                                       | ・指導上の留意点                                                                                                                                               |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入  | 1 本時の見通しをもつ。<br>(例) 活動の様子を地域の方にも聞いてもらい、よりよい活動にステップアップさせよう！                                                                                       |                                                                                                                                                        |
| 展開  | 2 チーム内で現時点までの振り返りを行う。<br>3 各チームで中間報告とアドバイスタイムを行う。<br>・チーム同士で中間報告を行う。<br>・相手チームが困っていることや、改善点などをアドバイスし合う。<br>・地域の方からもアドバイスを受ける。<br>4 地域の方からのお話を聞く。 | ・活動計画と比べて振り返る。<br>・必要に応じてポートフォリオも示し報告する。<br>・地域の方は、子供たちの活動に価値付けたり、地域の声を届けたり(地域社会の一員の自覚)、環境とのつながりについて助言したりするよう打合せをしておく。<br>・世界の環境問題とのつながりについても触れるようにする。 |
| まとめ | 5 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。<br>・振り返りカードへの記入、発表<br>・時間があればチームとしての振り返りをする。                                                                               | ・振り返りの視点を助言する。<br>・振り返りの内容から次時のめあてへとつなげていく。                                                                                                            |

#### (3) 本時の評価

活動の中間報告を行い、自信と主体性をもって活動②に向かおうとしている。(発言、観察、振り返り)